



AWS
Black Belt
Online Seminar

AWS re:Invent 2016で発表された 新サービス・新機能の紹介 パート 2 前半

アマゾン ウェブ サービス ジャパン株式会社

ソリューション アーキテクト 舘岡 守

2016.12.08

自己紹介

館岡 守(たておか まもる)

エンタープライズソリューション部
ソリューションアーキテクト



- 主に大企業のお客様を担当、AWSの導入を支援
- 前職は某AWS専業インテグレーター(CIer)
- 好きなAWSのサービス：**CloudWatch、AWSサポート**

AWS Black Belt Online Seminar とは

AWSJのTechメンバがAWSに関する様々な事を紹介するオンラインセミナーです

【火曜 12:00~13:00】

主にAWSのソリューションや
業界カッタでの使いどころなどを紹介
(例 : IoT、金融業界向け etc.)

【水曜 18:00~19:00】

主にAWSサービスの紹介や
アップデートの解説
(例 : EC2、RDS、Lambda etc.)



AWS
Black Belt
Online Seminar

※開催曜日と時間帯は変更となる場合がございます。

最新の情報は下記をご確認下さい。

オンラインセミナーのスケジュール&申し込みサイト

- <https://aws.amazon.com/jp/about-aws/events/webinars/>

内容についての注意点

- 本資料では2016年12月8日時点のサービス内容および価格についてご説明しています。最新の情報はAWS公式ウェブサイト(<http://aws.amazon.com>)にてご確認ください。
- 資料作成には十分注意しておりますが、資料内の価格とAWS公式ウェブサイト記載の価格に相違があった場合、AWS公式ウェブサイトの価格を優先とさせていただきます。
- 価格は税抜表記となっております。日本居住者のお客様がサービスを使用する場合、別途消費税をご請求させていただきます。

AWS does not offer binding price quotes. AWS pricing is publicly available and is subject to change in accordance with the AWS Customer Agreement available at <http://aws.amazon.com/agreement/>. Any pricing information included in this document is provided only as an estimate of usage charges for AWS services based on certain information that you have provided. Monthly charges will be based on your actual use of AWS services, and may vary from the estimates provided.

アジェンダ

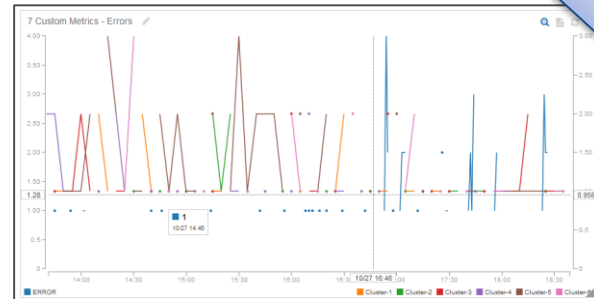
- CloudWatch
- Snowball
- AWS Batch
- EC2 Systems Manager
- AWS Personal Health Dashboard



CloudWatchアップデート①

Updated

- データの保持期間を15ヶ月に延長。データの粒度によって遡って参照できる期間が異なる
 - 1分毎のデータポイント：15日間
 - 5分毎のデータポイント：63日間
 - 1時間毎のデータポイント：15ヶ月間
- コンソールのデザインが改善され、メトリクスを選択やビジュアライズがさらに容易に
- CloudWatchとCloudWatch Logsの連携が強化され、グラフで指定した期間のログを容易に参照することが可能に



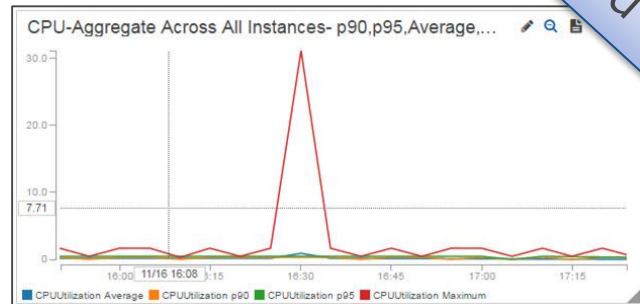
CloudWatch > Log Groups > /aws/lambda/MetricsToLogs_do-not-delete > All streams

"ERROR Cluster 0"	
Time (UTC +00:00)	Message
2016-10-27	
No older events found for the selected filter and date range. Adjust your filter and date range to view older events.	
16:42:33	2016-10-27T16:42:33.700Z 5c16cead-9c64-11e6-a33a-15d18c58eff9 ERROR
16:53:33	2016-10-27T16:53:33.460Z e542d164-9c65-11e6-a33a-15d18c58eff9 ERROR
16:54:34	2016-10-27T16:54:34.778Z 09c9196d-9c65-11e6-b0d4-3b6e68730c0d ERROR
16:54:39	2016-10-27T16:54:39.757Z e542d164-9c65-11e6-a33a-15d18c58eff9 ERROR
2016-10-27T16:54:39.757Z e542d164-9c65-11e6-a33a-15d18c58eff9 ERROR Cluster:0	
16:54:44	2016-10-27T16:54:44.537Z e542d164-9c65-11e6-a33a-15d18c58eff9 ERROR
16:54:51	2016-10-27T16:54:51.358Z e542d164-9c65-11e6-a33a-15d18c58eff9 ERROR
16:54:51	2016-10-27T16:54:51.358Z e542d164-9c65-11e6-a33a-15d18c58eff9 ERROR

CloudWatchアップデート②

Updated

- EBSスナップショットの作成やコピーの完了、共有をトリガに、CloudWatch Eventsにイベントを引き渡せるようになった
- CloudWatchでパーセンタイル統計が利用可能に。これによって平均では埋もれてしまうデータを正しく解釈することが容易になる
- カスタムメトリクス利用料の値下げを発表。メトリクス数に応じて40%から最大96%オフとなり、2016年12月1日から自動適用



メトリクス数	新料金	割引幅
11~ 10,000	\$0.30 / Metrics	40%
10,001~ 240,000	\$0.10 / Metrics	80%
240,001~ 750,000	\$0.05 / Metrics	90%
750,001+	\$0.02 / Metrics	96%

AWS Snowball Edgeを発表



NEW

- 100TBの容量を備えた新型Snowballアプライアンス、Snowball Edgeをラインナップに追加
- 接続インタフェースの拡張とともに、クラスタリングをサポート。複数台を束ね、容量の増加とともに耐久性の向上を図ることができる。サーバラックへの搭載にも対応
- S3 APIまたはNFS(v3/v4.1)によるアクセスをサポート。
- Lambdaの技術を内包(Greengrass)しており、筐体内部でPythonのアプリケーションコードを実行可能
- 1回のレンタルで10日まで\$300(+送料)、11日目から延長1日あたり\$30の料金。Lambdaファンクションの実行は無料



AWS Snowmobileを発表

- AWS Snowballを超える超巨大データ移行アプリケーション、Snowmobileを発表
- 最大100PBのキャパシティを45フィート国際海上コンテナ規格に集約、お客様サイトまでトレーラーでお届け(電源は350KWのAC)
- 40Gbpsのインタフェースを複数搭載し、最大1Tbpsのスループットでデータを書き込み可能
- リリース時点ではデータインポート(AWSへの持ち込み)のみサポート
- 米国リージョンで利用可能



AWS Batchを発表

NEW

- フルマネージド型のバッチ処理実行サービス
- 並列度の高い非同期処理を、クラスタの管理を行うことなしに容易に実現できる
- ジョブとして登録したアプリケーションやコンテナイメージをスケジューラが実行
- 利用するインスタンスタイプや数、スポット利用有無などはCompute Environmentとして任意に指定可能
- AWS Batchの利用料金は無料。起動したリソースについて課金される。バージニアリージョンにてプレビューを実施中

Amazon News Service Dashboard

Job status

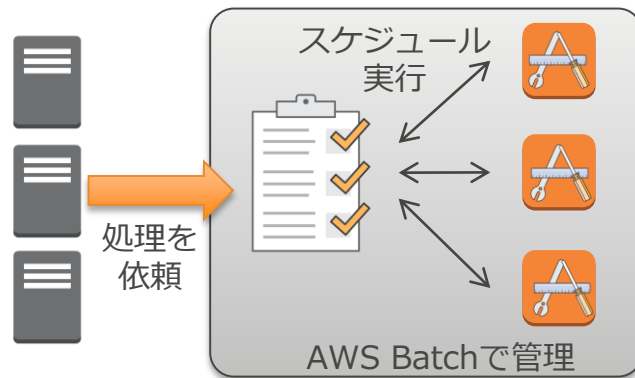
Queue name (priority)	Submitted	Pending	Runnable	Starting	Running	Failed	Succeeded
test-queue (500)	1	1	1	1	1	1	1
production-queue (1000)	1231	942	12	104020	57	17	8742

Job queues

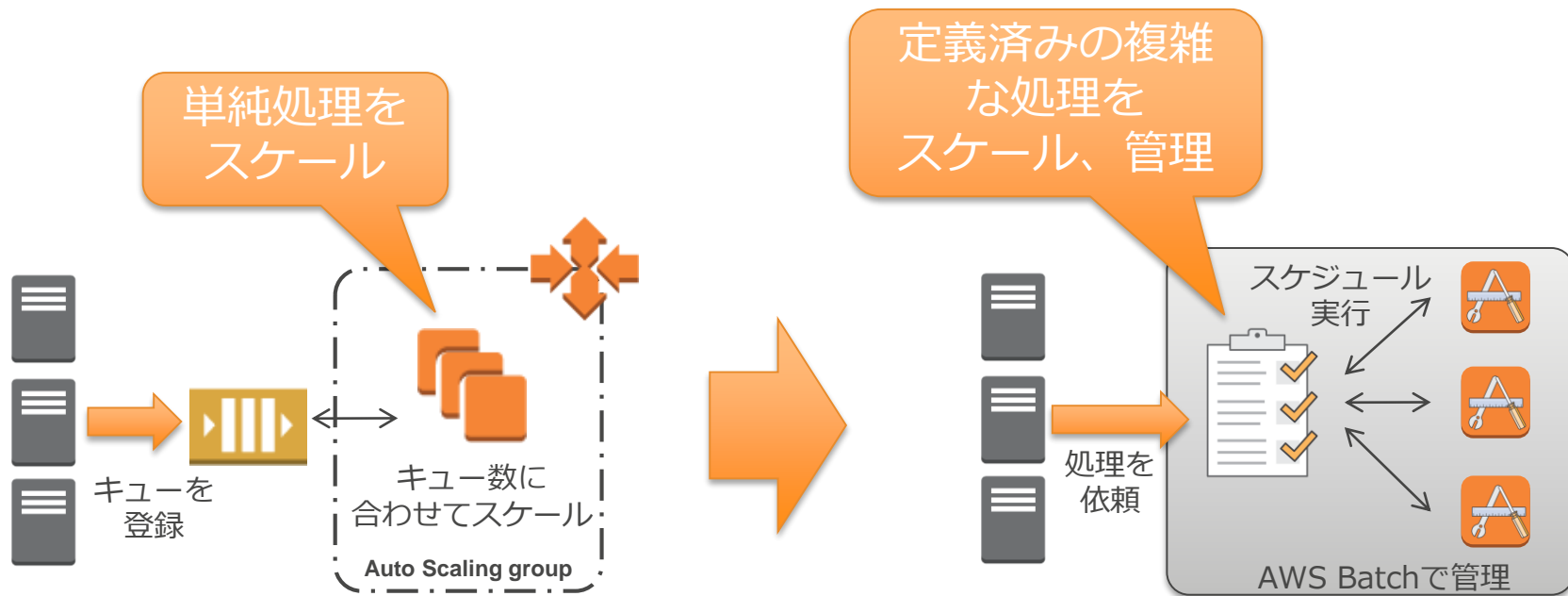
Name	Priority	Pending job count	Running job count	Registered instance count	Total vCPUs
test-queue	500	1	1	1	4
production-queue	1000	942	104020	20	90

Compute environments

Name	Type	Running job count	Desired vCPUs	Registered instance count
opt-env	managed	102201	1000	100
prod-batch	unmanaged	12	1000	100



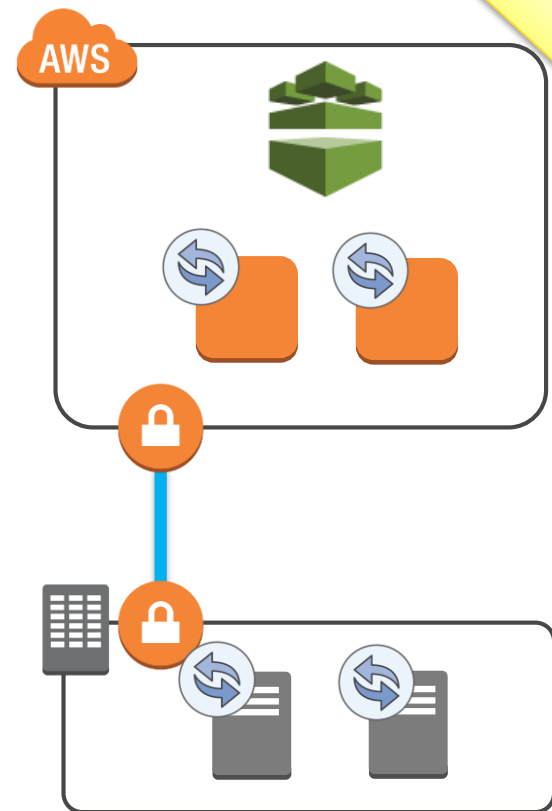
AWS Batchの登場で処理全般をアウトソース



EC2 Systems Managerを発表

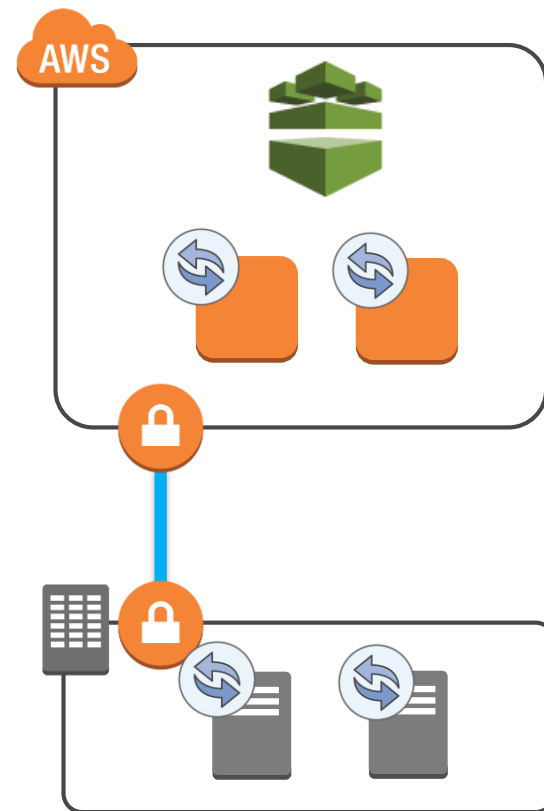
NEW

- EC2インスタンスやオンプレミスの構成管理を自動化するためのサービス
- 様々な運用タスクの自動化が可能
 - WindowsのOSパッチ適用
 - システムイメージの作成
 - Windows/LinuxのOS設定 など
- AWS Configとの連携により、OSレベルの設定変更の履歴を見える化することができる
- EC2 Systems Managerは無料で利用可能



サポートしているOS

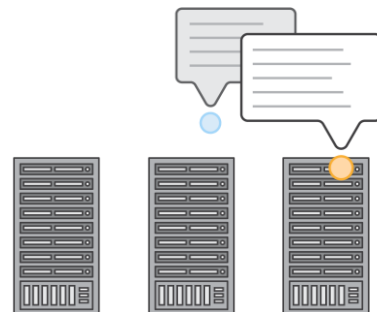
- Windows
 - Windows Server2003 – 2016(R2含む)
- Linux
 - 32bit & 64bit
 - Amazon Linux 2014.03以降
 - Ubuntu Server 12.04以降
 - Red Hat Enterprise Linux6.5以降
 - CentOS 6.3以降
 - 以下のバージョンは64bitのみサポート
 - Amazon Linux 2015.09以降
 - Red Hat Enterprise Linux7.0以降
 - CentOS 7.1以降



AWS Personal Health Dashboardを発表

NEW

- お客様が保有しているAWSリソースに関するメンテナンスイベントを集約するダッシュボード機能を提供
- アカウント毎に影響を受ける各種AWSサービスのメンテナンス通知やサービス障害情報を統合してダッシュボードに表示
- 通知後の自動アクションを、CloudWatch EventやLambdaとの連携したり、APIを通じて3rd Party製の既存監視システムとの連携も可能
- 全リージョン、全アベイラビリティゾーンで利用可能



ダッシュボード画面

Personal
Health
Dashboard

ダッシュボード

イベントログ

ダッシュボード

[CloudWatch Events による通知の設定](#)



0 未解決の問題
過去 7 日間

0 予定された変更

0 パルスダッシュボード
過去 7 日間

AWS インフラストラクチャに影響する可能性のある問題。過去 24 時間に 2 個の問題点が解決されました。

[すべての問題の表示](#)

開始時刻: 11月 30 2016 5:50:54 午後 UTC+9 [フィルターの追加](#)

イベント	リージョン...	開始時刻	最終更新日時	影響を受けるリソース
------	----------	------	--------	------------

イベントはありません。

参考資料

- CloudWatch
 - <https://aws.amazon.com/jp/cloudwatch/>
- Snowball
 - <https://aws.amazon.com/jp/snowball/>
- AWS Batch
 - <https://aws.amazon.com/jp/batch/>
- EC2 System Manager
 - <https://aws.amazon.com/jp/ec2/systems-manager/>
- AWS Personal Health Dashboard
 - <https://aws.amazon.com/jp/premiumsupport/phd/>



AWS
Black Belt
Online Seminar

AWS re:Invent 2016で発表された 新サービス・新機能の紹介 パート 2 後半

アマゾン ウェブ サービス ジャパン株式会社
シニア ソリューション アーキテクト 松久 正幸
2016.12.08

自己紹介

松久 正幸 (まつひさ まさゆき)

シニア ソリューション アーキテクト

- 略歴

- 前職は外資系SIerにてシステム構築、ITトランスフォーメーションのコンサルティングを実施
- 主に金融業界を担当

- 現在のロール

- 銀行、証券会社、生損保、ノンバンク、金融情報サービスのお客様のクラウドジャーニーを技術面から支援
- 日本の金融業界のお客様でクラウド利用によりデジタル・イノベーション、開発の効率化、コスト削減などが推進される環境作り

- 好きなAWSサービス

- Amazon VPC

アジェンダ

1. re:Invent 2016で発表されたサービスおよび最新の重要なアップデート
 - AWS Organizations
 - AWS CloudTrailアップデート - S3のオブジェクト操作ログ
 - AWS Greengrass
 - エンタープライズアプリケーション関連アップデート

2. AWSパートナー関連プログラム
 - 新しく追加されたAWSコンピテンシー
 - AWS Service Delivery Program



re:Invent 2016で発表された新サービス および最新の重要なアップデート

AWS Organizationsを発表

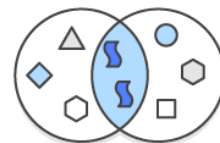
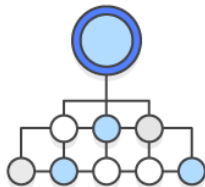
- 複数のAWSアカウントを運用しているお客様向けの統合管理機能をリリース
- APIを使用してAWSアカウントをOrganizationの中で作成できる
- Organization Unit (OU)および階層化構造を持つOUツリーを作成し、セキュリティやコストを管理することができる
- プレビューとして公開。追加コストなし。



AWS OrganizationsとAWS IAMの関係

NEW

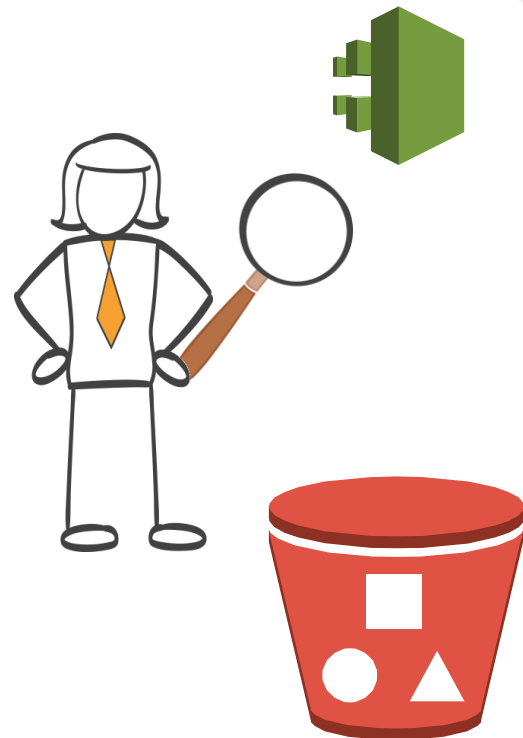
- 複数のアカウントをそれぞれの用途に応じてOUに分類し、OU毎に操作可能なサービスを制限できる
- AWSサービスへのアクセス制御としてOrganizationポリシーを作成
- IAMによるアクセス制御と組み合わせて利用することが望ましい。Organizationsによる制限はIAMで設定した権限よりも優先される



CloudTrailがS3のオブジェクト操作ログに対応

Updated

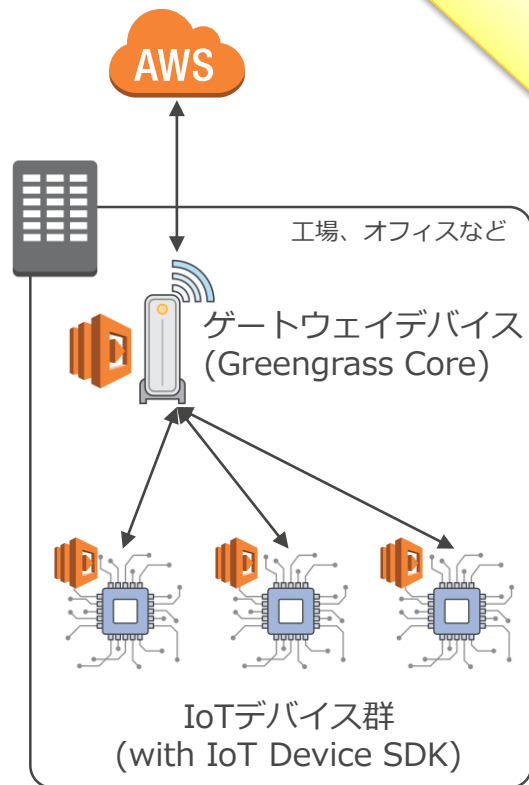
- CloudTrailでS3のオブジェクト操作に関するAPIコールの履歴をデータイベント(Data Event)として取得できるようになった
- データイベントの取得はバケット単位で指定が必要。取得するイベントの種類(読込・書込など)はイベントセレクタで選択可能
- データイベントの記録料金は10万件あたり0.1ドルとなる
※他は従来どおり10万件あたり2ドル



AWS Greengrassを発表

NEW

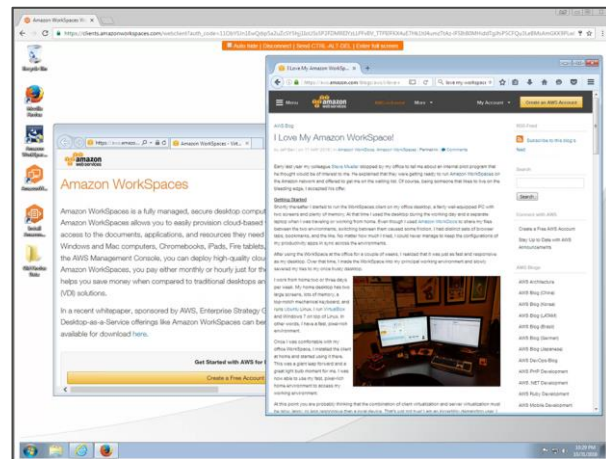
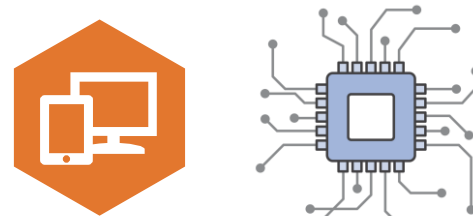
- IoTデバイスとゲートウェイデバイス、AWS上のリソースとの連携を容易にする新サービス
- ゲートウェイでGreengrass Core(GGC)を実行する。Lambdaファンクションを実行可能で、AWSとの連携や認証、周辺のIoTデバイスとの通信を司る
- IoTデバイスではIoT Device SDKを利用してセンサーデータの収集やMQTTメッセージの送信を行う。ステータス管理はAWS IoTのデバイスシャドウで実施する
- 現時点ではリミテッドプレビューの扱い。GGCデバイス3つまで1年間無料、以後1GGCデバイスあたり\$0.16/月または\$1.49/年となる(10,000以上は応相談)



Amazon WorkSpacesアップデート

Updated

- GPUを搭載したGraphicsバンドルをリリース
 - NVIDIA GPU(1,536CUDAコア、4GB VRAM)
 - 8vCPU、15GB RAM、100GB Disks
 - 料金は\$30/月+\$2.41/時間となる
- 専用クライアントを利用せず、ブラウザからのWorkSpaces環境へのアクセスが可能に
 - ネットワークに制約がある環境下でも利用可能
 - Windows/MacOSで稼働するFirefoxまたはChromeからの接続をサポート
 - 追加料金は不要だが、有効化が必要。既存環境はリビルドを行うと利用可能に



WorkSpacesでWin10のUIが利用可能に

Updated

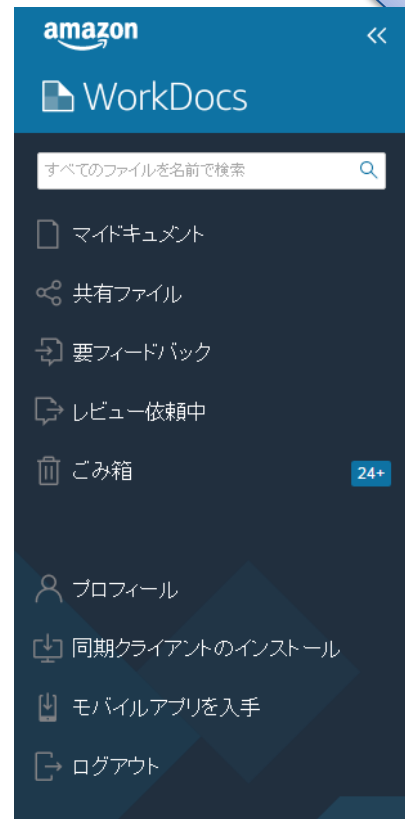
- Amazon WorkSpacesでWindows 10のデスク&フィールが利用できるようになった
 - Windows 7のUIもひきつづき利用可能
- 従来のWorkSpacesと同様に実態はWindows Serverだが、Windows Server 2016で提供
- Windows 10 UIを選択した場合、Plusバンドルで利用できるのはOffice 2016となる
- WorkSpacesが利用可能な全リージョンにて提供を開始



Amazon WorkDocsアップデート

Updated

- Web UIがアップデートされました。
- Windows版およびMac版のAmazon WorkDocs Syncクライアントで同期の通知が追加されました。
- Amazon WorkDocsユーザーのストレージクォータが、追加料金なしで200GBから1TBに引き上げられました。
- Amazon WorkDocs SDKのパブリックプレビューが利用可能になりました。
 - ドキュメント移行、データ損失防止、電子情報公開など多くのタイプの付加価値をSDKを利用して構築可能
 - JavaおよびPythonが利用可能
 - WorkDocsが利用できる6つのAWSリージョンで利用可能



Amazon WorkMailアップデート



Updated

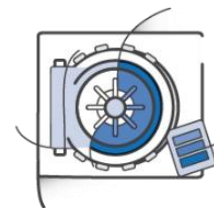
- Microsoft Exchange Serverとの相互運用性
 - Microsoft Exchange Server 2010および2013との相互運用をサポート
 - 両方の環境での同一企業ドメイン使用
 - カレンダーの予定を双方向で共有
 - Amazon WorkMailへの移行や一部ユーザへの導入が容易に
- メールのジャーナリング機能の追加、これによりAmazon WorkMail organizationで送信・受信したすべてのメールを保存することが可能
- 外部メールアドレスへのリダイレクトルール設定可能

AWS パートナー関連プログラム

新たに2つのAWSコンピテンシーを発表

NEW

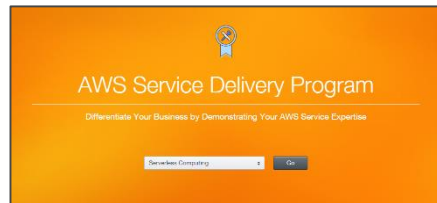
- AWSコンピテンシープログラムは、APNパートナーが特定の分野の専門知識を持っていることをAWSが認定するプログラム
- 既存の14種類に加え、今回新たに2種類が追加となった
 - IoTコンピテンシー
 - 金融サービス・コンピテンシー
- SORACOM様がIoTコンピテンシーのローンチパートナーとして認定を取得！



AWS Service Delivery Programを発表

NEW

- Amazon AuroraやAWS Lambda、Amazon Redshiftなど、特定のプロダクトに関するナレッジを保有するAPNパートナーの認定プログラム
- ポータルサイトで、各プロダクト毎に認定を保有するAPNパートナーを地域毎に、簡単に検索することが可能
- 認定基準として、対象サービスにフォーカスした事例やトレーニングの受講が含まれる



Amazon Aurora

Amazon Aurora partners deliver services or solutions for Amazon Aurora, a MySQL-compatible relational database engine that combines the speed and availability of high-end commercial databases with the simplicity and cost-effectiveness of open source databases. Amazon Aurora partners deliver new Aurora implementations, migrate AWS customers to Amazon Aurora, or build tools compatible with Amazon Aurora.

[Current Amazon Aurora Partners >>](#)

[Become Amazon Aurora Partner >>](#)



Amazon DynamoDB

Amazon DynamoDB partners help customers deploy Amazon DynamoDB, a fast and flexible NoSQL database service for all applications that need consistent, single-digit millisecond latency at any scale.

[Current Amazon DynamoDB Partners >>](#)

[Become Amazon DynamoDB Partner >>](#)



Amazon Redshift

Amazon Redshift Partners enhance customer Amazon Redshift data warehouse by working with industry-leading tools and experts for loading, transforming, and visualizing data.

[Current Amazon Redshift Partners >>](#)

参考資料 – 新サービスおよびアップデート

- AWS Organizations
 - <https://aws.amazon.com/jp/organizations/>
- AWS CloudTrail
 - <https://aws.amazon.com/jp/cloudtrail/>
- AWS Greengrass
 - <https://aws.amazon.com/jp/greengrass/>
- Amazon Workspaces
 - <https://aws.amazon.com/jp/workspaces/>
- Amazon WorkDocs
 - <https://aws.amazon.com/jp/documentation/workdocs/>
- Amazon WorkMail
 - <https://aws.amazon.com/jp/workmail/>

参考資料 – APN関連プログラムのアップデート

- AWS コンピテンシープログラム
 - <https://aws.amazon.com/jp/partners/competencies/>
- AWS Service Delivery Program
 - <https://aws.amazon.com/jp/about-aws/whats-new/2016/11/introducing-the-aws-service-delivery-program/>

Q&A



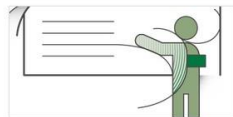
オンラインセミナー資料の配置場所

- AWS クラウドサービス活用資料集

- <http://aws.amazon.com/jp/aws-jp-introduction/>

日本語資料のカテゴリー一覧

本資料集では、この利便性を皆様にご利用していただけるよう、トレーニング、ソリューション/事例、プロダクト別、セキュリティ・コンプライアンス、その他という5つのカテゴリーで資料をご用意いたしております。



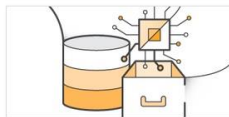
トレーニング資料

はじめてAWSをご利用いただくお客様向けに、AWSの概要、アカウント作成に関するご案内をいたします。



ソリューション・事例紹介資料

実際に他のお客様がどのようにAWSをご利用いただいているかをご覧いただける参考資料をご覧いただけます。



製品・サービス別資料

無料オンラインセミナー「AWS Black Belt Tech Webinar」や各種セミナーで紹介された、ソリューションアーキテクトによる各サービスの解説資料をご覧いただけます。

- AWS Solutions Architect ブログ

- 最新の情報、セミナー中のQ&A等が掲載されています
- <http://aws.typepad.com/sajp/>

公式Twitter/Facebook AWSの最新情報をお届けします



@awscloud_jp



検索



もしくは

<http://on.fb.me/1vR8yWm>

最新技術情報、イベント情報、お役立ち情報、
お得なキャンペーン情報などを日々更新しています！

AWSの導入、お問い合わせのご相談

- AWSクラウド導入に関するご質問、お見積り、資料請求をご希望のお客様は、以下のリンクよりお気軽にご相談ください

<https://aws.amazon.com/jp/contact-us/aws-sales/>

お問い合わせ	<h2>日本担当チームへのお問い合わせ</h2>
日本担当チームへのお問い合わせ >	AWS クラウド導入に関するご質問、お見積り、資料請求をご希望のお客様は、以下のフォームよりお気軽にご相談ください。平日営業時間内に日本オフィス担当者よりご連絡させていただきます。
関連リンク	※ご請求金額またはアカウントに関する質問は こちらからお問い合わせください 。
フォーラム	※Amazon.com または Kindle のサポートに問い合わせは こちらからお問い合わせください 。
	アスタリスク (*) は必須情報となります。
	姓*
	<input type="text"/>
	名*
	<input type="text"/>

ご参加ありがとうございました

